

知・技の創造

ものづくり大学発

▷62◁

本学で「日常意匠研究室」の看板を掲げている土居は、そもそも墓地の近代史を専門としており、現在も継続しています。今年から都の公園審議会公園専門部会に委員として関わり、墓地の来し方だけでなく、行く末も考える機会をいただいています。

近代に企てられた墓地の将来構想は、平成に入った辺りから、軌道修正を余儀なくされています。徳川時代、幕府構想は戦後へと継承されま

き継がれてきたのですが、時代が平成へと変わった辺りから、基本構想そのものの大前提が揺らぎ始めました。平たく言えば、家(家族)で墓を継承することが困難になったのです。いわゆる家族構

成の変化ですが、その背景には人口構成の変化がありま

土居 浩 建設学科教授

ご先祖さま支えるモノ

「ニージャパン」へ訪問した折に、遺骨を家内で安置してお

成の変化ですが、その背景には人口構成の変化がありま



どい・ひろし 博士(学術・総合研究大学院大学)。ものづくり大学教授。2001年、大学開学時から着任。関心領域は、日常意匠論。

戦後、しばらくは構想の一

日本の少子化は止まらず、

「ニージャパン」へ訪問した折に、遺骨を家内で安置してお